

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	24220013	研究期間	平成24年度～平成28年度
研究課題名	知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究	研究代表者 (所属・職) (平成29年3月現在)	小川 義和 (国立科学博物館・付属自然教育園・園長)

【平成27年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、博物館に「科学リテラシーパスポート」というシステムを導入し、対話型生涯学習システムを構築しようとするものである。全国を5地区に分け、開発したシステムを複数の協力博物館に導入・運用し、博物館の学習プログラム情報や多数のモニターの学習履歴を登録するなどして、博物館と利用者の双方向からのシステムの活用と改善を進め、期待した成果を十分に上げている。

しかしながら、当初は科学系博物館における利用を主な目的としていたこともあり、美術館・歴史博物館の利用者への広がりや期待するには、より広い視野に立った学習プログラムの検討が望まれる。また、利用者側のニーズや視点をより反映する工夫も重要である。

【平成29年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	<p>本研究の目的は、複数の博物館が連携し、博物館利用者の学習過程を記録し、提示することを通じて、博物館活用モデルを社会に還元できる対話型博物館生涯学習システムを構築することである。本研究において新たに構築したシステムに、各地区の博物館の学習プログラム情報を登録し、PCALi と名付けたサイトをインターネット上に立ち上げて、個人の学習履歴を蓄積する「科学リテラシーパスポートβ」の運用が計画どおり行われた。登録された学習プログラム数、参加したモニター数、プログラム参加者延べ人数は、目的を達成するためには十分であり、これらのデータから、利用者の科学リテラシーの変容の把握、システムの改善など、ほぼ所期の目的が達せられたと言える。また、「文理融合型の連携プログラム」などの新たなプログラムの開発、博物館職員の研修プログラムの提案、博物館の新たな機能としての知のプラットフォームの提案などの成果も評価できる。</p> <p>科学系博物館のみではなく、美術館・歴史博物館へのシステム導入をすでに試みているが、さらに文理融合した総合的な「ミュージアムリテラシー（博物館を理解し、活用するための知識、意識、スキル等）涵養体系」への展開、外部に対する発信の継続を期待したい。</p>